

科目名 産業経営経済学特論(一) (2単位)

担当者氏名 田中俊次

◆学習・教育目標

経営学・経済学に関する基礎的知識の習得の上に、生物産業経営を対象とした応用経営経済学を学ぶことを到達目標とし、テーマは「現代経営経済と生物産業経営の課題」とする。そして専攻が立地する地域特性に即して、主として生物産業の経営経済分析や情報科学の手法を習得する。一般経営学・経済学の学説史の基礎的理解をベースに現実を解明する方法論的立場を確立し、経済学的素養を伴った応用経営学として再構築を行う。農業・食料農村問題が、旧来のような狭い農業経営経済学のなかにとどまるのではなく、グローバル化した国際関係の変化のなかで、学問的枠組み自体の変革も求められ、それに対応した多様なアプローチが可能な力量を養う。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

現代産業 情報化社会	重商主義 情報処理	ケインズ学派 インターネット	複雑系経済学 情報検索
---------------	--------------	-------------------	----------------

◆授業の進行等について（単位制度に基づく授業の進行予定・内容）

回数	テーマ	内容	授業のねらいまたは準備しておく事項
1-4回	学説史の整理 (担当 田中俊次)	①重商主義、重農主義 ②古典学派 ③ケインズ学派 ④新古典派総合	学説史をサーベイして現代経営経済学の基礎を学ぶ
5-8回	現代産業分析の理論的枠組 (担当 田中俊次)	①各時代に施行された政策の内容を分析し、特徴的な政策理念を吟味する ②現代産業の諸課題を比較分析し、理論枠組のあり様を考察する ③要素還元的分析と複雑系経済学等の再吟味 ④アソシエーション理論、経済倫理学の再検討	現代産業分析のための理論的枠組を学ぶ
9-15回	情報処理技術の基礎と経済社会への応用 (担当 竹下幸一)	①情報化社会の基盤分析 ②現時点における情報処理機器の到達点 ③ネットによる情報提供および情報検索の現状 ④情報処理技術の基礎と応用状況の分析 ⑤情報処理技術の産業経営経済への到達段階 ⑥21世紀の経済社会の全般的分析と把握 ⑦理論の枠組となる、新たな理論要素の検討および再編の試考	情報処理技術の基礎とその現代の産業経営経済社会への応用について学ぶ

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）

書名／著者／発行所（発行年）

適宜文献を紹介し、資料を提示する。

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所（発行年）

講義の際に指示する。

◆評価の方法（レポート・小テスト・定期試験・課題等のウェイト）

課題報告、レポートにて評価する。

◆その他受講上の注意事項

---



---



---